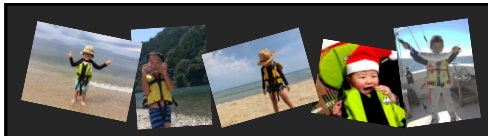
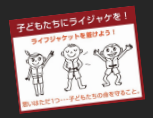


子どもたちに「ライフジャケット」を！
－思いはただ１つ…子どもたちの命を守ること。－



「子どもたちにライジャケを！」
代表　森重裕二（ライジャケサンタ）

1

学校行事での溺れ

2

人間（にんげん）の身体（からだ）はどれくらい浮（う）くの？

3

「ライフジャケット」を着（つ）けていたら？

4

四万十川での事故

5

「関心のある人と関心のない人の“間”」
で事故が起こる。そこを埋める。

6

「『ライフジャケット』を着用させる義務」
があるということ。

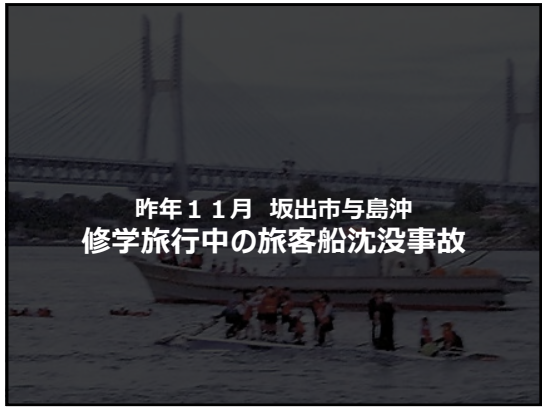
7

「ライフジャケット」を準備する責任。

8

香川では「ライフジャケット」に関わる
大きな事故が・・・

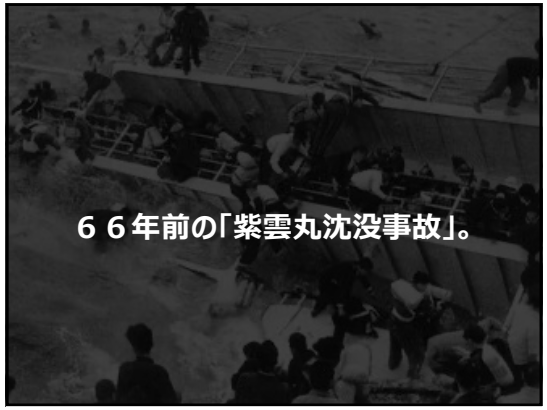
9



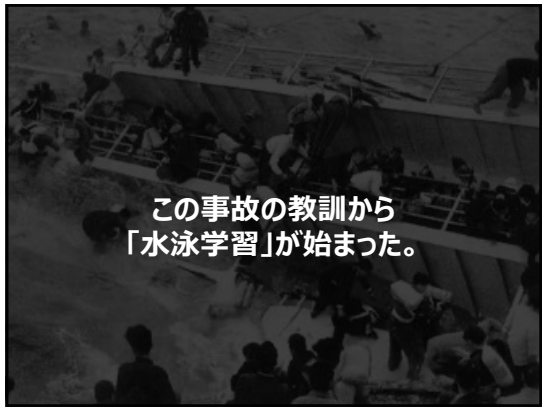
10

香川では、過去にも大きな事故が・・・

11



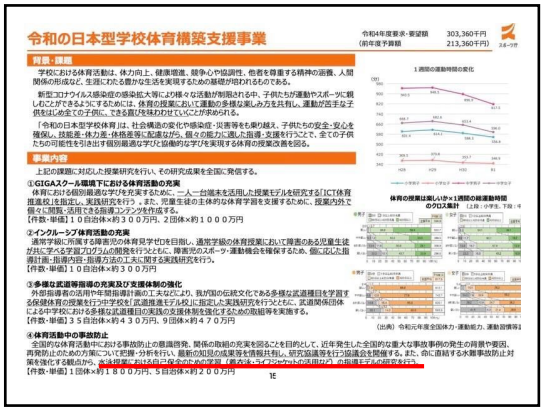
12



13

小学校学習指導要領改訂で、
水泳運動に「安全確保につながる運動」
「続けて長く浮く動き」が追加。

14



令和の日本型学校体育構築支援事業

令和4年度要求・要望額 303,360千円
（前年度予算額 213,360千円）

スポーツ庁

背景・課題

学校における体育活動は、体力向上、健康増進、競争心や協調性、他者を尊重する精神の涵養、人間関係の形成など、生涯にわたる豊かな生活を実現するための基礎が培われるものである。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により様々な活動が制限される中、子供たちが運動やスポーツに親しむことができるようにするためには、体育の授業において運動の多様な楽しみ方を共有し、運動が苦手な子供をはじめ全ての子供に、できる喜びを味わわせていくことが求められる。

「令和の日本型学校体育」は、社会構造の変化や感染症・災害等をも乗り越え、子供たちの安全・安心を確保し、技能差・体力差・体格差等に配慮しながら、個々の能力に応じた指導・支援を行うことで、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する体育の授業改善を図る。

事業内容

上記の課題に対応した授業研究を行い、その研究成果を全国に発信する。

①GIGAスクール環境下における体育活動の充実

体育における個別最適な学びを充実するために、一人一台端末を活用した授業モデルを研究する「ICT体育推進校」を指定し、実践研究を行う。また、児童生徒の主体的な体育学習を支援するために、授業内外で個々に問題・活用できる指導コンテンツを作成する。

【件数・単価】１０自治体×約３００万円、２団体×約１０００万円

②インクルーシブ体育活動の充実

通常学級に所属する障害児の体育見学ゼロを目指し、通常学級の体育授業において障害のある児童生徒がともに学べるプログラムの開発を行うとともに、障害児のスポーツ・運動機会を確保するため、個に応じた指導計画・指導内容・指導方法の工夫に関する実践研究を行う。

【件数・単価】１０自治体×約３００万円

③多様な武道等振興の充実及び支援体制の強化

外部指導者の活用や年間指導計画の工夫などにより、我が国の伝統文化である多様な武道種目を学習する保健体育の授業を行う中学校を「武道推進モデル校」に指定した実践研究を行うとともに、武道関係団体による中学校における多様な武道種目の実践の支援体制を強化するための取組等を実施する。

【件数・単価】３５自治体×約４３０万円、９団体×約４７０万円

④体育活動中の事故防止

全国的な体育活動中における事故防止の意識啓発、関係の取組の充実を図ることを目的として、近年発生した全国的な重大な事故事例の発生の背景や要因、再発防止のための方策について把握・分析を行い、最新の知見の成果等を情報共有し、研究協議等を行う協議会を開催する。また、命に直結する水難事故防止対策を強化する観点から、水泳授業における日常安全のための空撮（救命浮き・ライフジャケットの活用など）の指導モデルの研究を行う。

【件数・単価】１団体×約１８００万円、５自治体×約２００万円

1E

1 週間の運動時間の変化

体育の授業は楽しい少々×1週間の総運動時間のクロス集計（上段：小学生、下段：中

（出典）令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調

15

16

坂出での事故の教訓から
「ライフジャケット教育」が始まった。

17

水辺に連れていく時、
「ライフジャケット」を準備する義務。

水泳学習で「ライフジャケット」を
体験させる授業。

18

まとまった数の「ライフジャケット」を
どうやって準備しますか？

19

「ライフジャケット」がないのに、
準備しなければならないというジレンマ。

20

「ライフジャケット」をつけるべきだった・・・
と後で言うのは簡単。

そこに「準備」があるのかどうか。

21

官民連携による仕組みづくり「香川モデル」

企業＆個人

連♥携

行政

ライフジャケットの寄贈

ライフジャケットの運用・管理

県内各地に学校等で活用できる
「ライフジャケット・レンタルステーション」の充実を目指している。

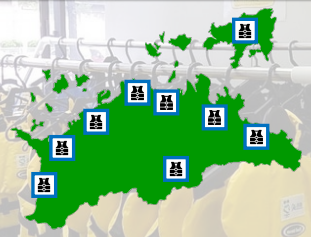
22

香川県内のレンタルステーション

- SATOUMI レンタルステーション 県庁・５０個
- 坂出市 ライフジャケットレンタルステーション ８５個
- ライフジャケット レンタルステーション 教育委員会・５０個
- 坂出市まろっこひろば ライフジャケットレンタルステーション １０個
- 津田の松原海水浴場 レンタルステーション 香川ライフセービングクラブ・１０個
- 「子どもたちにライジャケを！」レンタルステーション ７０個　個人の方にも貸し出し可能

23

「香川モデル」の最終目標



学校や園、子ども会などで、使いたい時にすぐにレンタルできるシステムづくり

「ライフジャケット着用体験」や水辺の安全教育の充実

24

香川県教育委員会保健体育課
指導主事

「開設初日で、多くの学校や園から貸出を希望したいという声が寄せられ、あっという間に８月上旬までの予約がびっしりと埋まりました。学校からのニーズはあると思っていましたが、これほどまでとは思いませんでした。」

↓

「ライフジャケット」が準備されて初めて、
ニーズが生まれる。

25

足りないのは、「意識」なのか？
「ライフジャケット」なのか？

26

コストは１着５０００円として
１００着で５０万円。

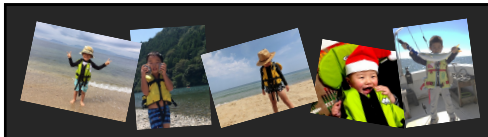
27

ニュースにならない。
何も起こらない。
笑って家に帰れる。

28

助かる事故には、
「判断」と「準備」がある。

29



絵本「かっぱのふうちゃん」
ーライフジャケットですいすいー

子どもの未来社より、近日刊行予定！

「子どもたちにライジャケを！」
代表　森重裕二（ライジャケサンタ）

30